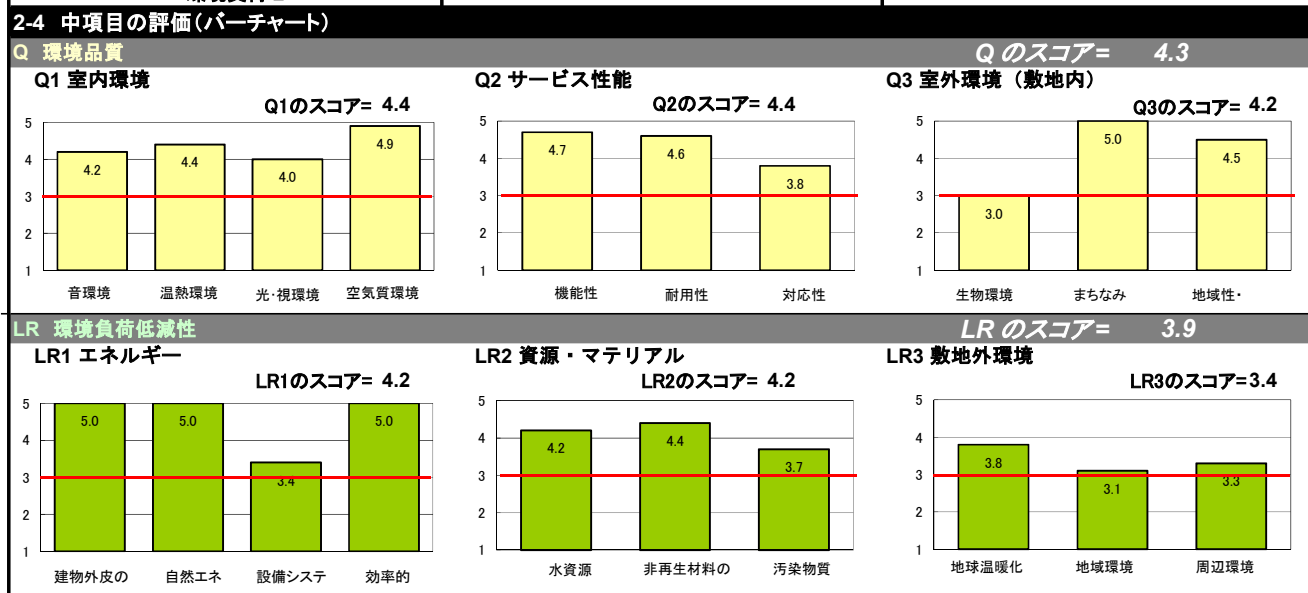
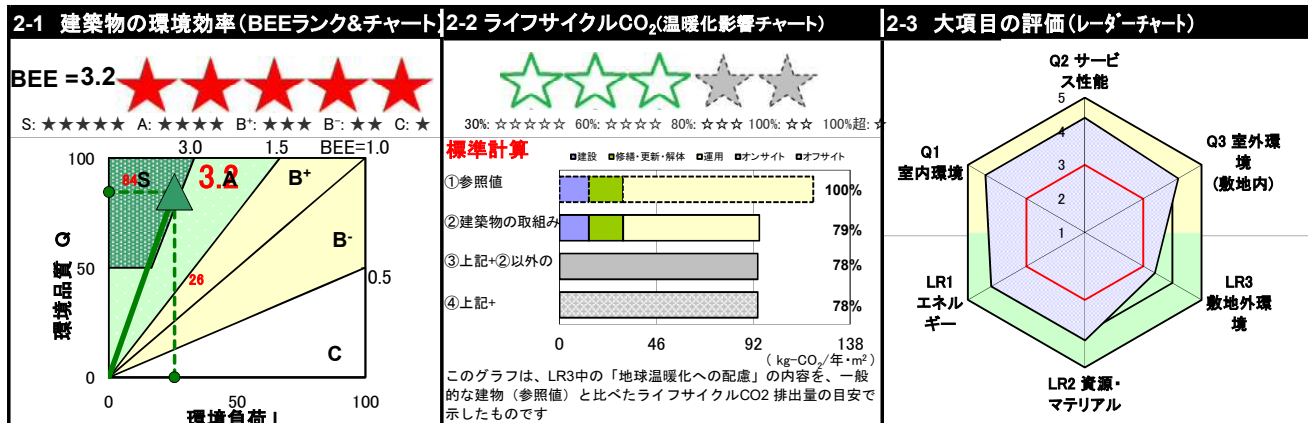


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	浜松いわた信用金庫 本部棟	階数		
建設地	浜松市中区元城町114-7,114-8,114-9	構造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	事務所	評価の段階		
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日		
敷地面積	2,689 m ²	作成者		
建築面積	1,559 m ²	確認日		
延床面積	11,685 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項			その他
総合 建物西側の浜松城と正対する恵まれた敷地を活かすべく、西側を建物正面とし、西・北・東側に開けた平面計画とした。西日の日射遮蔽と眺望の両立を図り、「働く人」の快適性向上に寄与し、ABWを支援する空調・照明システムにより、地域金融機関のSDGsモデル例としての発信を目指す。			光・温熱環境に対する執務者の感じ方の個人差や好みの違いがあることを踏まえ、オフィス空間において積極的にムラを創り、それぞれが働きやすい場所を自由に選択できる執務空間とする。
Q1 室内環境 デシカント外調機による湿度制御を行っている。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペース、ミニキッチン进行、在館者の快適性向上を図っている。 設備機器のメンテナンス性、更新性に配慮した機器配置を行っている。	Q3 室外環境 (敷地内) 近隣住宅への圧迫感の低減のため、建物のセットバックを行うとともに、在館者が出入りできる屋上を設け、一部緑化することで、周辺環境向上に寄与している。	
LR1 エネルギー 執務フロアは、各階の外装サッシ、吹抜上部の開口部を利用し自然換気を行っている。直接外気を取り入れるため、強風時には、外装ルーバーによりオフィス内の気流速度を抑制している。	LR2 資源・マテリアル 既存底盤を残すことで廃棄量を削減し、埋め戻し資材も低減している。	LR3 敷地外環境 外装ルーバーにテラコッタを用いることで、光害抑制へ配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目												
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点						3.8						
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①テラコッタルーバー、電動ブラインドの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②テラコッタルーバー、電動ブラインドの採用 ③レンガタイル外装など反射を抑えた材料の採用 ④外装材は30年以上の耐用年数で計画	Q-1	2	2.1	2.12	①	外皮性能	Q-1	3	3.1	3.13	②	昼光利用設備	
						③	昼光制御				3.2	④	躯体材料の耐用年数	
			Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.2.2	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
						2.2.3	④	空調換気ダクトの更新必要間隔			2.2.4	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
						2.2.5	④	主要設備機器の更新必要間隔			2.2.6	④	生物環境の保全と創出	
									Q-3	1			⑤	敷地内温熱環境の向上
										3	3.2		⑥	
		■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤地場産材木材の採用 ⑥接道する外構には緑地帯を配置												
		■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率率的運用) ⑦テラコッタルーバーによる日射遮蔽。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制					⑧	自然エネルギー利用
				2			⑨	設備システムの高効率化					⑩	モニタリング
			3			⑩	運用管理体制							
			4	4.1										
				4.2										
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬ODP=0,GWP=50未満 ⑬窒素ガス消火設備の導入。	LR-2	1	1.1		⑪	節水					⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2	1.2.1	⑪	雑排水等利用システム導入の有無					⑫	材料使用量の削減	
					1.2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用					⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					⑫	持続可能な森林から産出された木材	
					2.1.2	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み					⑬	有害物質を含まない材料の使用	
					2.1.3	⑬	消火剤					⑬	断熱材	
					2.1.4	⑬	冷媒					⑬		
					2.1.5	⑬						⑬		
					2.1.6	⑬						⑬		
			3	3.1		⑬						⑬		
				3.2	3.2.1	⑬						⑬		
					3.2.2	⑬						⑬		
					3.2.3	⑬						⑬		
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭燃焼機器を設置しない	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮					⑮	温熱環境悪化の改善	
			2	2.2		⑮								
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点						5.0						
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯免震装置の採用。 ⑰耐震スクラス	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	Q-2	2	2.1	2.1.2	⑯	免震・制振性能	
						⑰	空調・換気設備				2.1.3	⑰	給排水・衛生設備	
						2.4	2.4.1	⑰	電気設備			2.4.2	⑰	機械・配管支持方法
							2.4.3	⑰	通信・情報設備			2.4.4	⑰	
							2.4.5	⑰				2.4.5	⑰	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点						4.5						
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱/⑲	ユニバーサルデザイン計画	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱/⑲	階高のゆとり	
			3	3.1	3.1.1	⑲	空間の形状・自由さ				3.1.2	⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
	■室外環境(敷地内)対策 (②①地域性・アメニティへの配慮) ②①地場産木材の内装材への採用、建物外壁ラインのセットバック	Q-3	3	3.1		②①		Q-3	3	3.1		②①		
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点						3.6						
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤地場産木材の内装材への採用 ⑥接道する外構には緑道を配置し歩道空間を広げた	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	Q-3	1			⑤	まちなみ景観への配慮	
			2			⑥	敷地内温熱環境の向上					⑥		
			3	3.2										
	■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮空地率40%以上、外壁面対策面積率(テラコッタルーバー面積)が20%以上	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	LR-3	2	2.2		⑮		